

科目名	祖典講読ⅣE							学期	後期
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-207	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3	単位数	2	他	—

授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、漢文の注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想について理解を深める。

授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

授業計画

1. 前期の復習・補説
2. 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
3. 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
4. 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
5. 摩字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
6. 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
7. 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
8. 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
9. 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
10. 吽字合説の余義（※典拠となった『大日経』の一節を読む）
11. 吽字合説の余義（大空擁護の義趣、自在能破の義趣、能満希願の義趣、堅固大力の義趣）
12. 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等観歓喜の義趣）
13. 総括
14. 試験
15. 試験問題の解説

準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストの該当箇所を自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(90分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

テキスト

『十巻章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 ※注釈書はコピーを配布

参考書・参考資料等

松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） / 弘法大師著作研究会編『吽字義の研究』（高野山大学密教文化研究所紀要別冊） など

学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回の講義で回答と解説をおこなう。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

その他

必ず予習して講義に臨むこと。